

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500390		
法人名	株式会社大五舎		
事業所名	グループホームひまわり2		
所在地	〒037-0016 青森県五所川原市一ツ谷510-23		
自己評価作成日	平成30年10月18日	評価結果市町村受理日	平成28年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、ゆったりと生活できるよう心がけている。日頃から、入居者との関わりを最優先にし一人ひとりの願いやこだわりを知り、それが出来る限り実現できるように職員間で話し合い協力して1つでも多く叶えられるように頑張っています。母体が病院なので、医療面でも安心して利用できる事業所です。大きな窓があり、リビングから公園で子供達が遊んでいる様子や四季折々の景色が見られます。利用者と一緒に買い物に出掛けたり、食事を作ったり、野菜作り、花見、ねぶた見物などに出掛けられるよう支援している。また地域との関わりとして、行事参加も積極的に行っており、地域と一体となった活動をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街に位置し、地域住民との関係性は良好で相互に行事へ参加している他、防災協力も得られている。事業所の住環境が優れており、リビングは家庭的な雰囲気を感じられる構造・配置となっている。その他、共有スペースには個別にくつろげる場所も確保されている。処遇面では、事業所移転の際に管理者を中心として職員全員で理念を見直し考えたことで、職員ひとり一人が理念を意識しケアを行っている。内部研修や勉強会も積極的に行われ、ケアの質向上に努めている。職場環境では、外部研修への参加希望や環境整備に必要とする備品の購入等、職員の意見が多く反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関にiPadを置き理念、重要事項説明書が誰でも見れるようにしている。	玄関やリビングにも理念を掲示し、月1回の会議の場において職員全員で再確認するようにしている。また、管理者からは、日常的に理念に即したケアが提供されるよう意識付けされており、行事に至るまで理念が反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し地元の皆さんと交流(納涼祭・忘年会・花植え)している。	町内の忘年会、地域の花壇への花植え行事に参加している。事業所の行事では、クリスマス会を毎年開催し、家族や地域住民を招待して相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや運営推進会議で認知症の方のグループホームでの生活の様子や支援方法についてお話させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの行事や出来事を報告し、参加者と意見交換を行っている。	市役所職員、民生委員、地域住民が参加し、2か月に1回定期的に会議を開催している。事業所の近況報告の他、身体拘束の未実施状況等についても毎回報告している。また、様々な意見交換から地域の防災協力体制が得られる等、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一回の運営推進会議に毎月出席している。分からないことがあると細目に市の窓口へ足を運び意見を頂きサービスの向上につなげている。	日頃から密に連絡を取り合っており、市独自の福祉サービスの情報を得て利用に繋がる等、様々な協力が得られている。また、空床時の情報交換も都度行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の勉強会を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に説明を行い同意を得ている。(ベット柵の使用)	事業所内で内部研修を開催し、職員全員で身体拘束を含む不適切なケアに対する理解を深め取り組んでいる。やむを得ない場合に対しての説明・同意は得ているが、これまでに身体拘束が行われたことはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待もあってはならないことを考え人権を尊重し言葉使いにも気をつけている。内部研修を行い職員に周知し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての外部研修参加や学んだ事を他職員と共有するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書と重要事項説明書に沿って説明を行いご家族様の方の疑問や不安な点を尋ね理解して頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に個別に話ができる機会を設けている。また家族にはケアプラン作成時、担当者会議を行い家族の意見・要望を伺っている。	面会の際は毎回、事業所の管理者とケアマネジャーが家族から生活に対する意向や様々な意見を確認している。また、生活の様子など細かい情報も互いに共有し、処遇に関する意見の吸い上げも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、代表との個別面談を行い職員一人一人の意見を聞く機会を設けている。	代表者と職員の個別面談の他、日常においても様々な意見が取り入れられている。入居者の実情に合わせた福祉用具の導入による処遇面での改善や、職員の積極的な有給取得等、働きやすい職場として環境改善につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、職員の希望を聞き作成している。又、育成面談にて職員の要望を確認した上で実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修を計画して実行しており、研修後は報告書を提出してもらい研修報告は、会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や研修、懇親会等を通じて同業者と交流する機会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者には、一度ホームへ来て頂きホーム内の様子を見たり話を聞く機会を設けている。サービス開始前には、それまで関わっていた居宅から情報を得た上で家庭訪問をして、ゆっくりと話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談も行っている。何に困っているか家族からの要望、不安を受け止め信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人と充分話しをした上で家庭訪問をしたり以前のケアマネージャーと話すことにより見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と一緒に食事の用意をしたり、新聞を畳んでもらう等の軽作業も含め、出来るだけ利用者さんも生活の輪に加わって頂けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの情報を元にケアを行う中で、必要な物をご家族に持参お願いしたり、相談をする等支え合う関係を意識しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行っていたお店・場所があればスタッフでの対応や公共機関・ご家族・ゆかりの方にも協力頂き支援しています。	入居前から通い続けている美容院や、馴染み深かった場所への外出は継続的に行われている。また、家族の協力を得て、墓参りや寺へ出かけることも多くある。その他、古くからの友人の面会も定期的に見られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの役割を持ったり助けあえるような促しをしている。席を工夫する等、楽しく生活出来るように支援しています。トラブルが生じたらスタッフが間に入り影響が残らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談出来る旨をご本人や家族に伝えてあります。退去先に対しケアの情報を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通してご本人の思いや希望・要望は、必ずプランに入れ込んでいる。困難な場合は、ご家族との協力・相談を行いご本人の意向に努めています。	日頃、生活の場面から得た思いや意向についてはその都度連絡帳に記入して、職員間で情報を共有している。また、思いを表すことが難しい方は、家族の面会時に時間を設け意向の確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジメントの開始の際に、これまでの生活環境・現在の状況報告を受けサービスに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事と出来ない事、苦手な事を把握しています。生活パターン・リズムを把握する為センター方式等を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の全体会議で意見交換の話し合いを行い介護計画に反映している。必要であれば即ち介護計画を見直しを行い作成を立てている。	日頃の様子を連絡帳等に記録しアセスメントしている。その情報を職員間で共有し、月1回の会議の場で再確認している。その後、必ず家族を交えてサービス担当者会議を開催し、ケアプランを作成している。また、モニタリングも会議の場で行い、状態に即していなければ期間に関わらず見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子がいろいろな職員により具体的に記録されている。共有が必要な事柄に関し申し送りノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ人員配置を多くする事や遠出の支援もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じてご家族・周辺地域の方々と意見交換をする機会を設けてる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診支援を行っている。また必要に応じて家族同行にて医療機関との話し合いを行い連携をとっている。	入居前からのかかりつけ医への受診は継続して職員が行っている。状態変化等、必要性があれば家族へ同行をお願いしている。また、嘱託医の看護師が週2回事業所を訪問する健康観察や、嘱託医への通院や事業所への往診が行われている。緊急時には嘱託医が随時対応する等、適切な医療を受ける事ができるよう万全な体制がとられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理・医療面での相談・助言・対応、連携を図り受けています。週2回、中村整形外科より看護師来所して健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者との情報交換や相談に務め退院時の受け入れがスムーズに出来る様またご家族にも安心して頂けるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いや相談に応じており医療連携を図りながら行っている。終末期にはご家族と過ごせる看取りの部屋を提供。ご家族と過ごせるように配慮している。	設備上、重度化や終末期となった場合、これまで殆どの方は入居者・家族の意向に沿って医療機関や他事業所等へ移行しているが、入居時に提供できる医療体制の説明を行い、希望があった場合は看取りケアを行える体制をとっている。実績として、これまで1名の看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員も内容を理解している。事故発生した場合は直ちに対応してもらえるように医療機関等と連携し指示対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回、避難訓練を実施している。年に1回は消防署立ち会いの下夜間を想定した訓練も行っています。	2か月に1回避難訓練を実施するほか、水害に関してはハザードマップを作成し市に提出している。有事の際は、運営推進会議に参加している地域住民との協力体制がとられている。また、食品や暖房器具の備蓄があり、自家発電も設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意向やプライバシーを配慮した上で呼びかけや声掛けを行っている。スタッフには、守秘義務を徹底している。	入居者の尊厳やプライバシーに関して、月に1回の会議で確認している他、内部研修も行い職員全員で取り組んでいる。特に排泄時の声掛けに関しては、周りに聞こえないように配慮している。実際に調査時には、入居者への声掛けが適切である様子が伺えており、プライバシーを損ねない対応を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	力量に応じて自己決定を促す場면을積極的に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人が行きたい所は、家族にも協力してもらい実現している。天気の良い日は、ドライブ等にも出掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣服を選んだり、希望により他の美容室に行ったりお洒落が出来るように支援している。季節に合わせて衣服を調節して、いつも身だしなみには気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや茶碗拭き等、一人ひとりに合わせて毎回やってもらっている。また昔の知恵を教えてもらい尊重して実行している。	毎日の詳細な献立はなく、その都度事業所で収穫した野菜やいただいた食材等、入居者と話をしながら旬の食材を用いて献立を決めている。買い物・準備・片付けも職員だけではなく入居者も一緒に行い、その際は入居者から昔の知恵を聞きながら行う等、個々に役割をもって生活できるように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせてミキサー食・きざみ食・トロミをつける等して嫌いな物は、他の物で代用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、側について行っている。手順が分からなければ、身振り・手振りで分かりやすい言葉で支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用。排泄パターンを把握し時間を見ながら声掛けし誘導している。	排泄表と入居者それぞれの動作等から排泄のパターンを把握して個別にトイレへ誘導し、なるべくトイレで排泄できるよう取り組んでいる。排泄に関する能力が向上できるような視点で、毎日の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等で、身体を動かし食事や排泄チェックを行っている。毎日、ヤクルトを飲まれている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にバイタルチェック。利用者一人ひとりの好みの温度で入浴できるよう支援している。	それぞれ好きな時間帯に入浴できるよう職員配置を手厚くして対応している。好みの温度も個別に把握しているためその都度、温度調整して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間を把握している。眠剤の服用では医師・家族と相談しながら行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、一人ひとりの服薬の内容を理解し薬の変更などあった時は、必ず申し送りノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの役割があり自身につながるよう支援している。 (台所仕事・料理・買い物・裁縫)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分転換もかねて職員と一緒に買い物やドライブ、その他地域の方と交流をもてるよう納涼祭やクリスマス会ではご家族を招待し交流を深めている。	個別に行きたい場所への外出や外食は、定期的に計画し行っている。その他、毎日の食材の買い出しに入居者と一緒に出かけている。また、家族の協力を得て墓参り等にも出かけることが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力を把握し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などに、本人自らが電話出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、花や折り紙、写真を飾り庭には菜園を行い、玄関には季節の花を飾っています。	リビング全体は間接照明により心地良い採光となっており、キッチン是对面式で調理する音や香りを感じることができる。また、食事をする場所とくつろぐスペースがそれぞれに確保されており、廊下にはベンチが設置され、大きな窓から日光浴ができる。その他、建物の中心に中庭が存在し、家庭菜園が行われている等居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人が隣になるように座る位置を決めています。ソファでは、横になったり自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、仏壇、タンス好きな物を取り入れ安心出来るよう工夫しております。	家族の協力も得ながら、入居前から使い慣れている家具や仏壇等を持参されており、自宅からの生活の連続性が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が、移動しやすいよう手すりや空間に配慮している。また居室に名札をつける等の工夫をしている。		